七人のアーティストが音楽とパフォーマンスで浦島太郎のその後をモチーフに
起こりうる瞬間、瞬間を繋ぎ「サキの國」へ向かいます

森　弘一郎　Mori Koichirou　パフォーミングアーティスト

日本のダンスシーンを経て渡米。
その後、舞台芸術の世界を知り、北欧デンマークを中心にヨーロッパの国々へと活動の場を広げる。
ダンスの枠を越え芸術的表現者として舞台芸術の道へ。
劇場公演「くるみ割り人形 HIPHOP バージョン」をはじめ数々の舞台でデンマーク国内最高評価六つ星を取得。
同作品ではデンマーク最高峰の劇場アワード (Reumert Award) において、「Reumert 賞」「Copenhagen 賞」
「Danish hiphop 賞」の 3 部門を受賞。また、「Danish Culture Canon」を受賞。
その芸術性の高さを認められ、デンマーク女王も賛辞をおくられた。

山 井 綱 雄　Yamai Tsunao　金春 (こんぱる) 流シテ方能楽師

重要無形文化財 (総合指定) 保持者。公益社団法人「能楽協会」本部理事。公益社団法人「金春円満井会」常務理事。1973 年横浜生まれ。金春流 79 世宗家故金春信高、80 世宗家金春安明、富山禮子に師事。能楽師であった祖父の影響で 5 歳で初舞台、１２歳で初シテ（主役）。以来数々の大曲秘曲を披演。洋楽邦楽芸術家との共作共演多数。2011 年 NHK 大河ドラマ「江」、2016 年 NHK 大河ドラマ「真田丸」にて能主役出演と能監修指導を手掛ける。2014 年平成 26 年度文化庁文化交流使に就任、海外での日本伝統文化の普及に尽力。2017 年カナダ・バンクーバーにて現地作曲家歌手と能オペラ「KAYOI KOMACHI」を共同制作し主演、新しい可能性を開拓。2018 年第 73 回文化庁芸術祭参加公演「芸歴 40 周年記念山井綱雄之會」を主催。
能楽が内包する今日忘れられかけた「日本古来の心」の啓蒙の為、奔走中。現在、磯子区岡村在住。

おおたか静流　Sizzle Ohtaka　シンガー＆ヴォイスアーティスト

七色の声を駆使し、あらゆるアートと交差しながら、無国籍ノンジャンルの道を行く。

国内外で、声と光をテーマに〝Light & Shadow〟と名付けた作品を発信している。

『声のお絵描き教室』主宰、声のバリアフリーと可能性を追求する。

NHK E テレ「にほんごであそぼ」にレギュラー出演中。

Photo 小沢芳彦

クリストファー•ハーディ　Christopher Hardy　パーカッション

アメリカ出身。西洋打楽器の基礎を持ちつつ、中近東、北アフリカ、西アフリカやラテンの代表的打楽器であるハンドドラムのスペシャリストとして高い評価を得ている。独自の打の創造に満ちたアプローチを織りし、これまで STING、吉井和也、Ai、UA、渡辺香津美、山下洋輔、林英哲、加藤和彦、などと共演。
ビクターよりリリースされたソロ CD・DVD「タッチ」をリリース、月刊ステレオ誌発表により最優秀録音賞第 1 位となり同時にアメリカ発売。洗足学園大学教授。シルク・ドゥ・ソレイユ「ZED」のミュージシャンとしてステージに参加。創作的なサウンドを展開している。

松 尾 慧　Matsuo Kei　横 笛

日本の伝統的横笛（篠笛、能管、龍笛、神楽笛など）を演奏、現代邦楽の合奏や、雅楽、民俗芸能の演奏の他、ソロ、様々なアンサンブルの形で活動している。箏、三絃、琵琶などの邦楽器とのアンサンブルにとどまらず、多様な洋楽器、民族楽器とのセッション、舞踊とのコラボレーションにも取り組んでいる。
能管を能楽森田流松田弘之氏に、龍笛、高麗笛、神楽笛を伶楽舎宮丸直子氏に師事。篠笛は、仲林光子氏に手ほどきを受け、竹井誠、鯉沼廣行、村山二朗各氏に、古典、現代曲、民俗芸能の笛を学ぶ。

駒 沢 裕 城　Komazawa Hiroki　ペダル・スティール・ギター

東京生まれ。小坂忠のバック・バンド、フォー・ジョー・ハーフを経て、はちみつぱいに加入する。

その後は、日本を代表するペダル・スティール・ギター奏者として、細野晴臣、矢野顕子、大滝詠一、

はっぴいえんど、あがた森魚などの数多くのレコーディング・セッションに参加している。

八 尋 洋 一　Yahiro Yo-ichi　ベース

1982 年 オルガン奏者ワルター・ワンダレ - のサポートメンバーとして活動開始。

1983 年 吉田和雄率いる スピック & スパンのメンバーとなる。

以降国内ライブシーンで活動中。